



令和 7 年 5 月 16 日
九州地方整備局
川辺川ダム砂防事務所

川辺川の流水型ダム仮排水路トンネルで遡上実験を実施しました

令和 6 年 10 月に公表した環境影響評価レポートにおける環境保全措置の 1 つとして、仮排水路トンネルを使用する期間に河川の連続性を確保するための検討を進めていくにあたり、仮排水路トンネル内でアユの遡上実験を実施することとしています。

この度、これまでに実施した実験の様子を事務所ホームページにて公開しましたので、以下のとおりお知らせします。

実験の結果、延長約 575m と長く、かつ暗いトンネル内であってもアユが遡上することを確認しています。

引き続き、更なる環境影響の最小化、並びに環境再生・創出に向けて取り組んでいくとともに、取り組み結果について情報発信をしていきます。

実験実施場所：川辺川の流水型ダム仮排水路トンネル内（相良村藤田地区）

実験詳細：別紙 1 のとおり

遡上状況・実験様子動画：

https://www.qsr.mlit.go.jp/kawabe/dam/rikai_torikumi/sonota.html

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所

技術副所長

くまがえ
熊谷

たかのり
隆則

調査設計課長

あきやま
秋山

ひでき
秀樹

電話番号（代表）：0966-23-3174

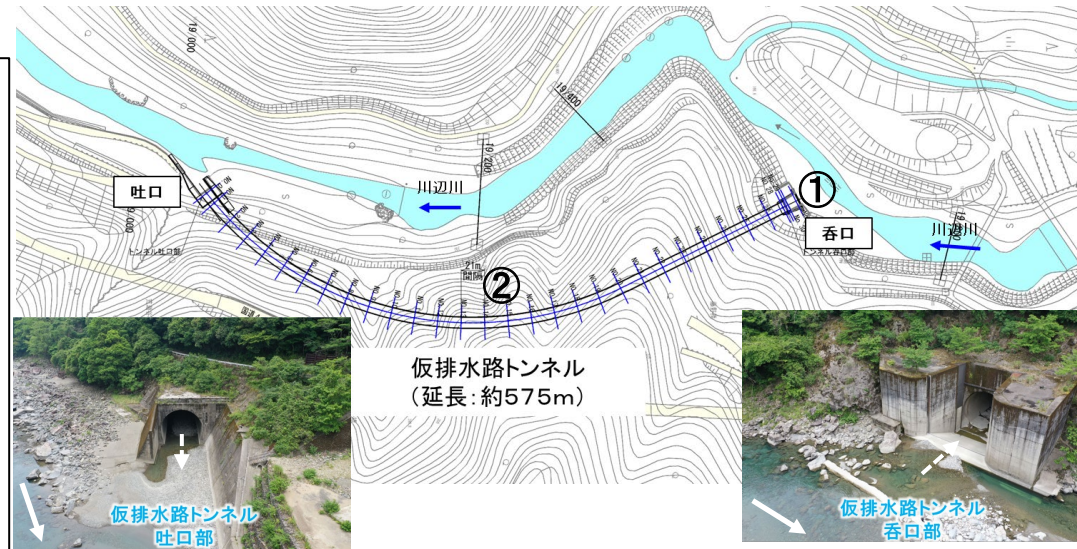
- ダム本体工事期間中は、既に整備済みの仮排水路トンネルを用いて、河川の流れを転流(トンネルに迂回)。
- 約575mと長く、かつ暗いトンネル内をアユが遡上できるか確認することを目的に遡上実験を実施。
- これまでの実験の結果、アユが遡上したことを確認。
- 今後は、転流期間中でもアユをはじめとした川辺川に生息する魚が遡上できるよう、呑口に新たに魚道を設置するとともに、仮排水路トンネル内の流速を抑制する対策も検討しています。

<実施状況>

- 【実験1回目】

 - ・実施日：4月24～25日
 - ・流量：約0.06m3/s
 - ・実験で使用した球磨川産のアユ：722個体
 - ・遡上個体数：24日 呑口部で624個体を目視確認
25日 実験終了後呑口部で596個体回収
※一部のアユが降下した可能性あり
- 【実験2回目】

 - ・実施日：5月14～15日
 - ・流量：約1.5m3/s
 - ・実験で使用した球磨川産のアユ：735個体
 - ・遡上個体数：14日 呑口部で153個体を目視確認
15日 実験終了後呑口部で433個体回収



①実験状況(呑口部)

